

**こども園等、小中学校での
障がいのある子の受け入れ
実態と意識についての調査
報告書**

平成 27 年 3 月

豊田市こども発達センター

目次

はじめに.....	1
障がいのある子の受け入れ実態と意識についての調査結果.....	2
回答状況.....	2
こども園等.....	2
小中学校.....	2
支援計画について(こども園等のみ).....	2
在園、在籍状況.....	2
こども園等.....	2
小中学校.....	2
受け入れ時の対応について.....	3
こども園等、小中学校を合わせた状況.....	3
こども園等.....	3
小中学校.....	4
連携について.....	8
連携機関.....	8
連携職種.....	9
外部講師による研修.....	10
今後について.....	10
こども園等、小中学校を合わせた状況.....	10
まとめ.....	15
参考資料1 アンケート項目.....	16
1 こども園用.....	16
2 小中学校用.....	22
参考資料2 調査実施メンバー.....	28

はじめに

日ごろは豊田市こども発達センター（以下、発達センター）の業務にご理解とご協力をいただきありがとうございます。特別支援教育が開始されて7年が経過し、また、児童福祉法などの改正もなされ、障がいのある子をめぐる社会状況も大きく変化から、発達センターといたしましても、更なる支援の充実を図るため、こども園、幼稚園、学校の障がい児の受け入れの現状把握と今後の受け入れについてアンケート調査を実施いたしました。

調査の対象としては、豊田市内の公立こども園、私立こども園、私立幼稚園、小学校、中学校としました。実施方法はこども園については公達を利用して送付及び回収を実施し、私立幼稚園については郵送にて配布、回収を実施しました。園長先生または主任先生といった園の中で責任のある方に回答をお願いしました。小学校、中学校については学校教育課と豊田市青少年相談センターパークとよたにご協力いただき、電子メールにて配布、回収いたしました。学校については特別支援教育コーディネーターの先生に回答いただきました。

アンケートの実施にあたっては、豊田市役所保育課、豊田市教育委員会をはじめとした関係機関のご協力いただき、深く感謝しております。結果についてまとめましたのでご報告させていただきたいと思います。皆様方の機関での受け入れの現状及びこれからの対応についてのお考えをお伺いした、その結果を踏まえて、発達センターとしても皆様のニーズにそった支援を今後展開していきたいと考えております。これからもセンターの活動にご協力のほど宜しく願いいたします。

平成 27 年 3 月

豊田市こども発達センター長

障がいのある子の受け入れ実態と意識についての調査結果

回答状況

こども園等

全体で約80%の園から回答をいただきました。記入者は園長41人、主任37人とほぼ半々でした。障がいの子の担当経験はばらつきが大きいという結果でした。公立こども園では経験年数が多い人が多く見えてましたが、私立こども園、私立幼稚園では経験年数の少ない人と10年以上の経験年数の人との二極化が目立ちました。

小中学校

学校教育課、パルクとよたのご協力があり、全小中学校から回答をいただきました(106校)。

特別支援教育コーディネーターの兼務されている職種としては教頭、教務主任、特別支援学級担任が多くありました。

支援計画について(こども園等のみ)

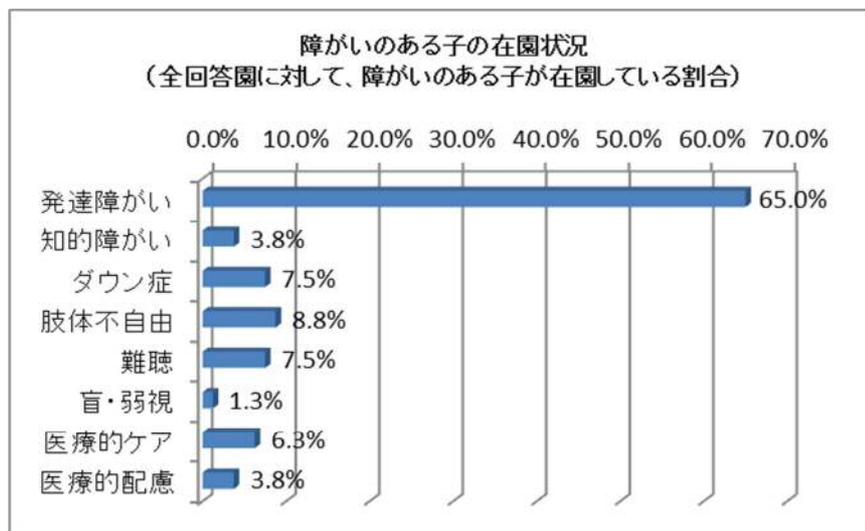
回答のあった80園中、一部の子で作成しているという園を含めると59園で個別の支援計画を策定していました。

在園、在籍状況

こども園等

「主な障がい」としてお聞きすると発達障がいのお子さんが在園していると回答のあった園が圧倒的に多くありました(45園)。

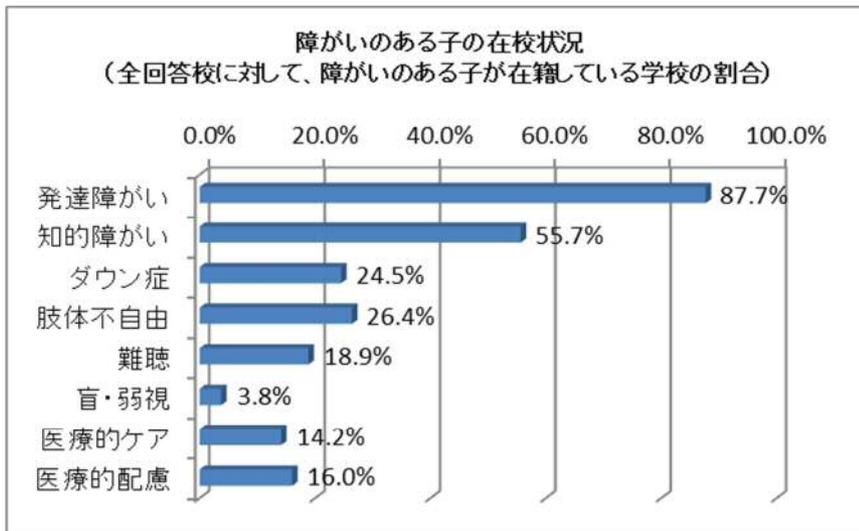
その他の障がいとしては知的障がい(2園)、ダウン症(8園)、肢体不自由(5園)、難聴(6園)、盲・弱視(1園)、医療的ケア(5園)、医療的配慮(3園)でした。



小中学校

こども園等と比べると他の障がいの比率が高くなっていますが、発達障がいのお子さんが非常に多い状況に差はありませんでした(小学校66校、中中学校27校)。

その他では知的障がい(小学校38校、中学校21校)、ダウン症、肢体不自由、難聴、医療的ケア、医療的配慮が多く、盲については多くはありませんでした。



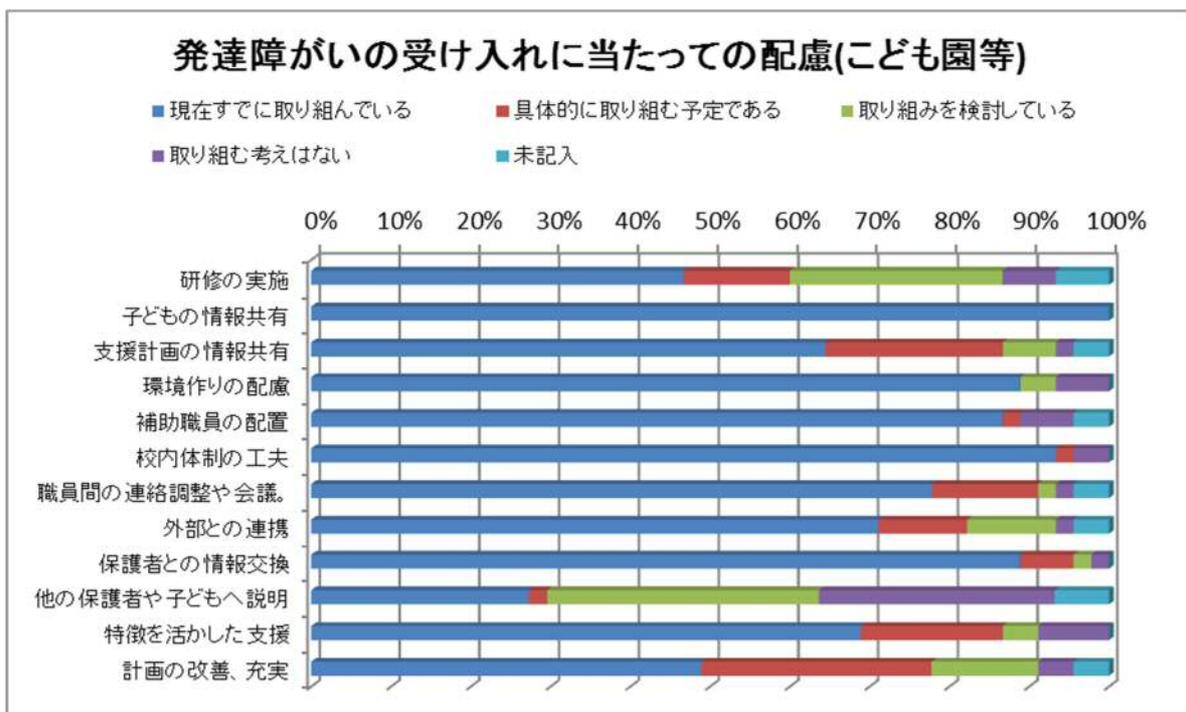
受け入れ時の対応について

こども園等、小中学校を合わせた状況

質問であげた項目についてはどの項目も重要な項目であり、こども園等、小中学校ともすでに取り組みられているものが多いという回答でした。しかし「他の保護者や子どもに対する説明」という項目はどの障がいについてもまだそれほど多くは取り組まれていませんでした。

こども園等

発達障がい以外のお子さんを対象として答えられた園は多くありませんでした。発達障がい以外のお子さんについては個々の事例の事情が強く反映されていると考えられます。発達障がいのお子さんについての回答を見ると、「現在すでに取り組んでいる」「具体的に取り組む予定である」を合わせて50%を下回るのは「他の保護者や子供への説明」という項目のみでした。その他の項目では、「支援計画の情報共有」「計画の改善、充実」という項目で「現在すでに取り組んでいる」のみだと50%を下回りました。支援計画については今後作成される場所が多くなり、これからの課題となると思います。



小中学校

盲・弱視については対象が少ないので、それ以外の障がいで「現在すでに取り組んでいる」「具体的に取り組む予定である」の両者を合わせて50%を下回っているのは以下の通りでした。

研修の実施：ダウン症、肢体不自由、難聴、医療的ケア、医療的配慮

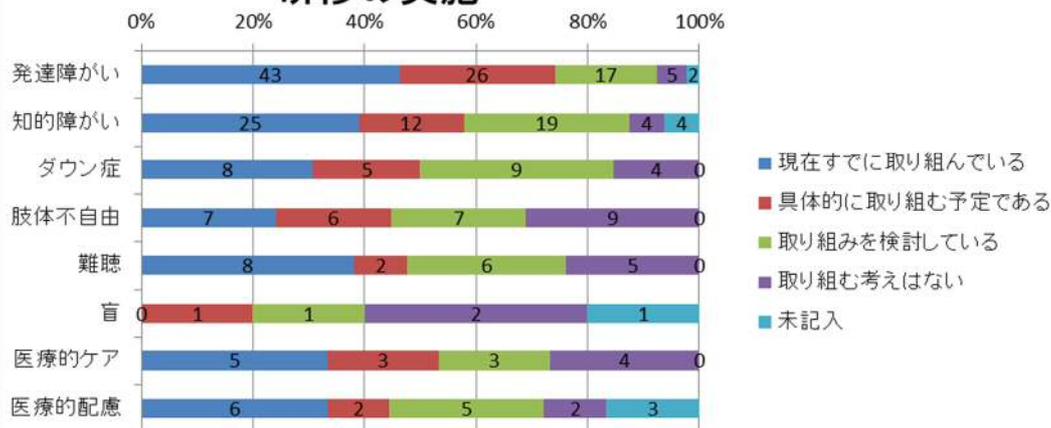
補助員の配置：難聴、医療的配慮

他の保護者や子どもへの説明：発達障害、知的障がい、ダウン症、肢体不自由、難聴、医療的ケア、医療的配慮

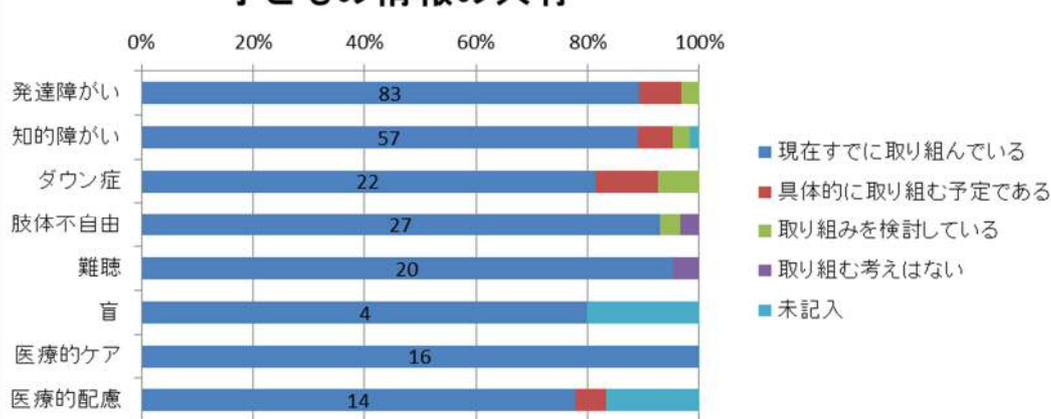
対象となるお子さんが少ない場合は、研修の実施のような形で学校の職員で全体的に取り組むというよりも個々の事例への対応という形で、担当職員を中心にして外部機関との連携がされているのだと思います。

難聴、医療的配慮の必要なお子さんについては、補助員の配置よりも機器利用や環境面での対応が必要とされているのだと思います。

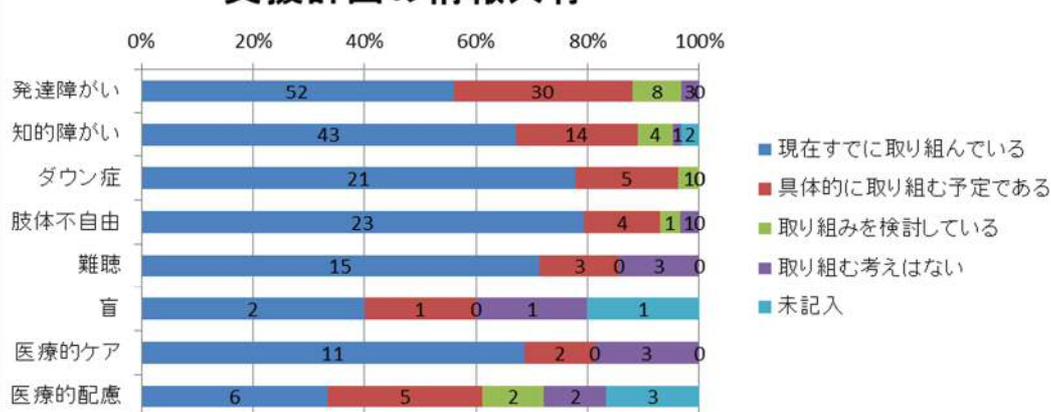
研修の実施



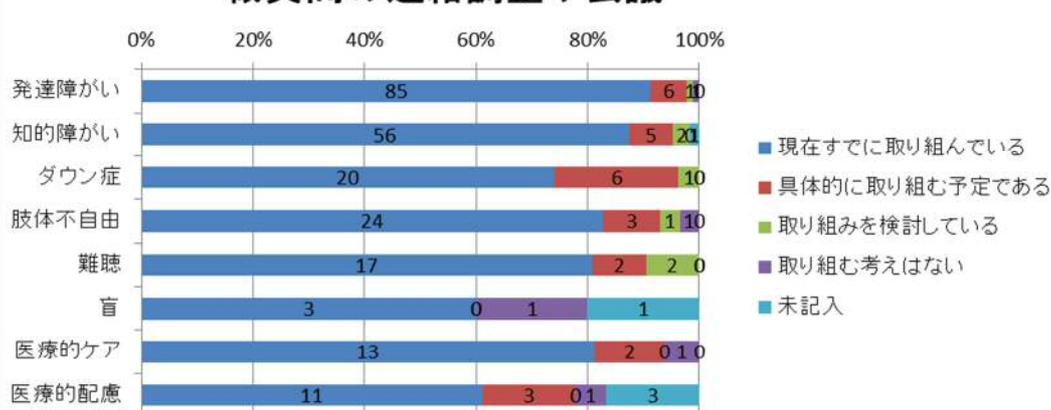
子どもの情報の共有



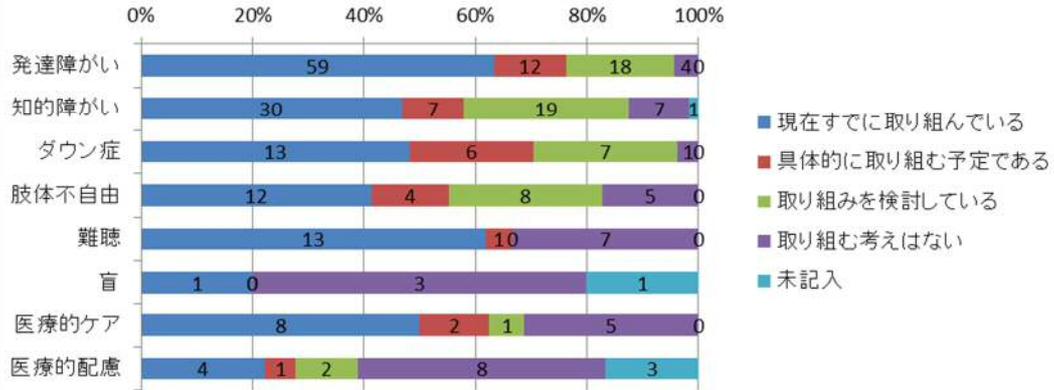
支援計画の情報共有



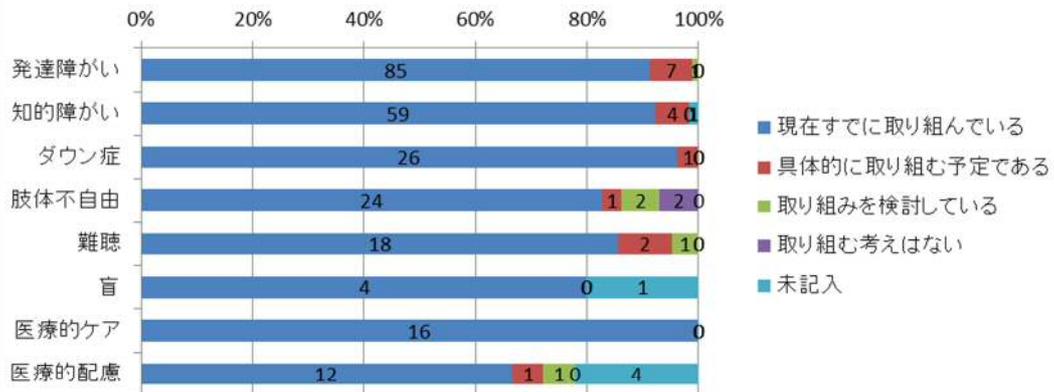
職員間の連絡調整や会議



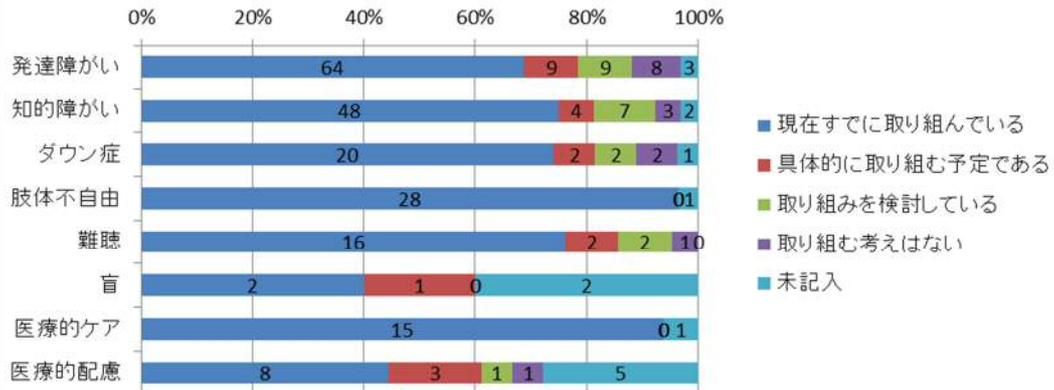
外部との連携



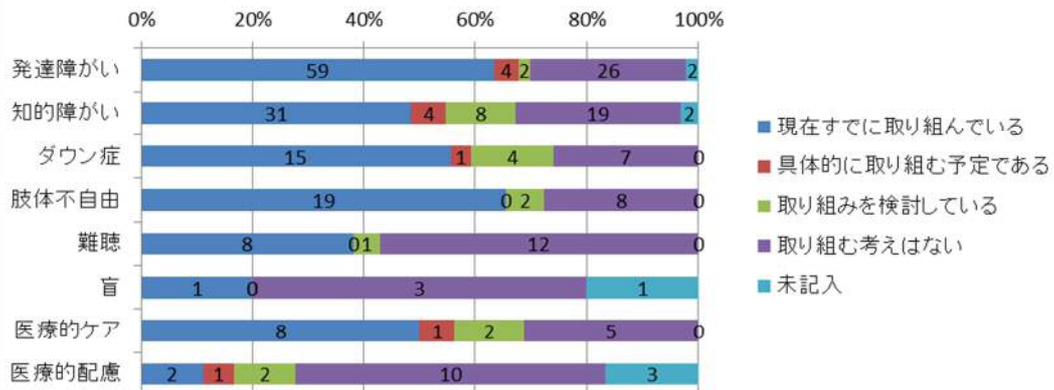
保護者との情報交換



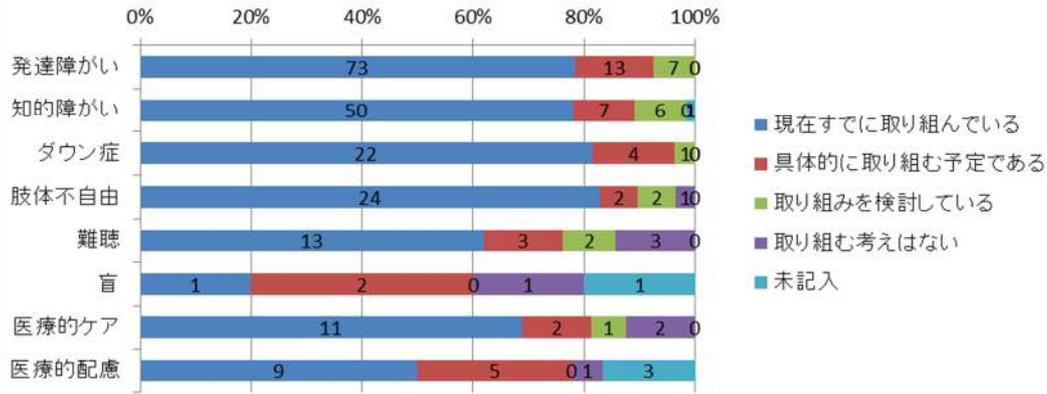
環境作りの配慮



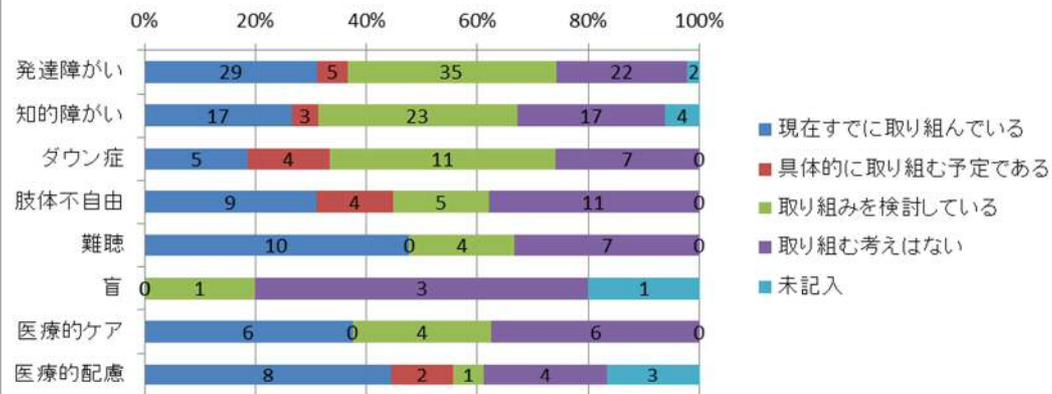
補助員の配置



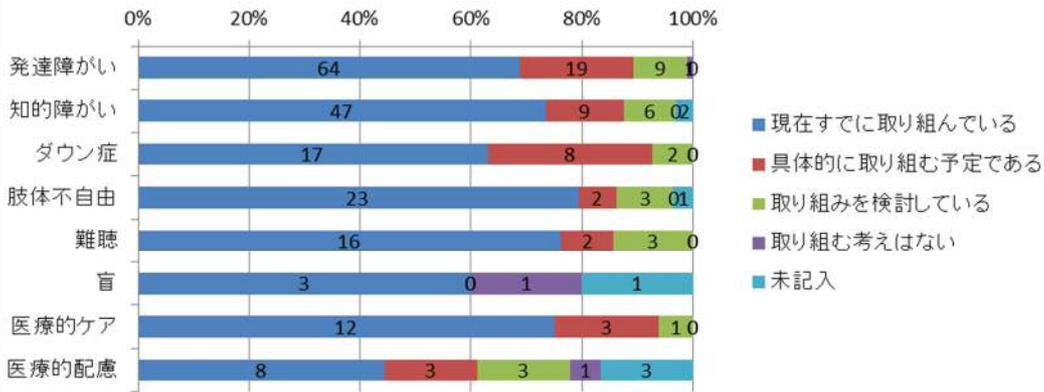
校内体制の工夫



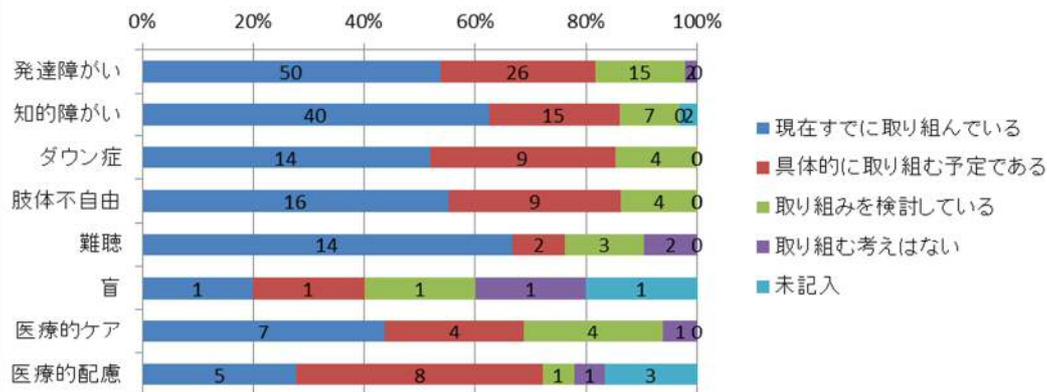
他の保護者や子どもへ説明



特徴を活かした支援



計画の改善、充実

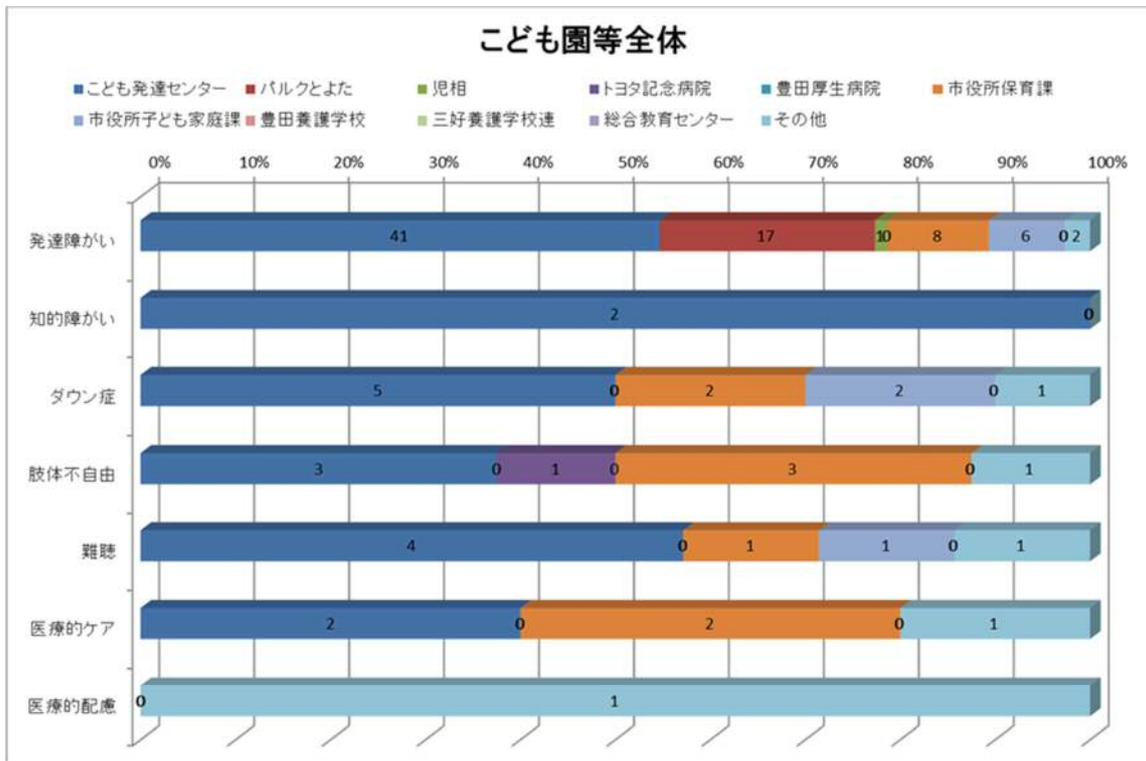


連携について

連携機関

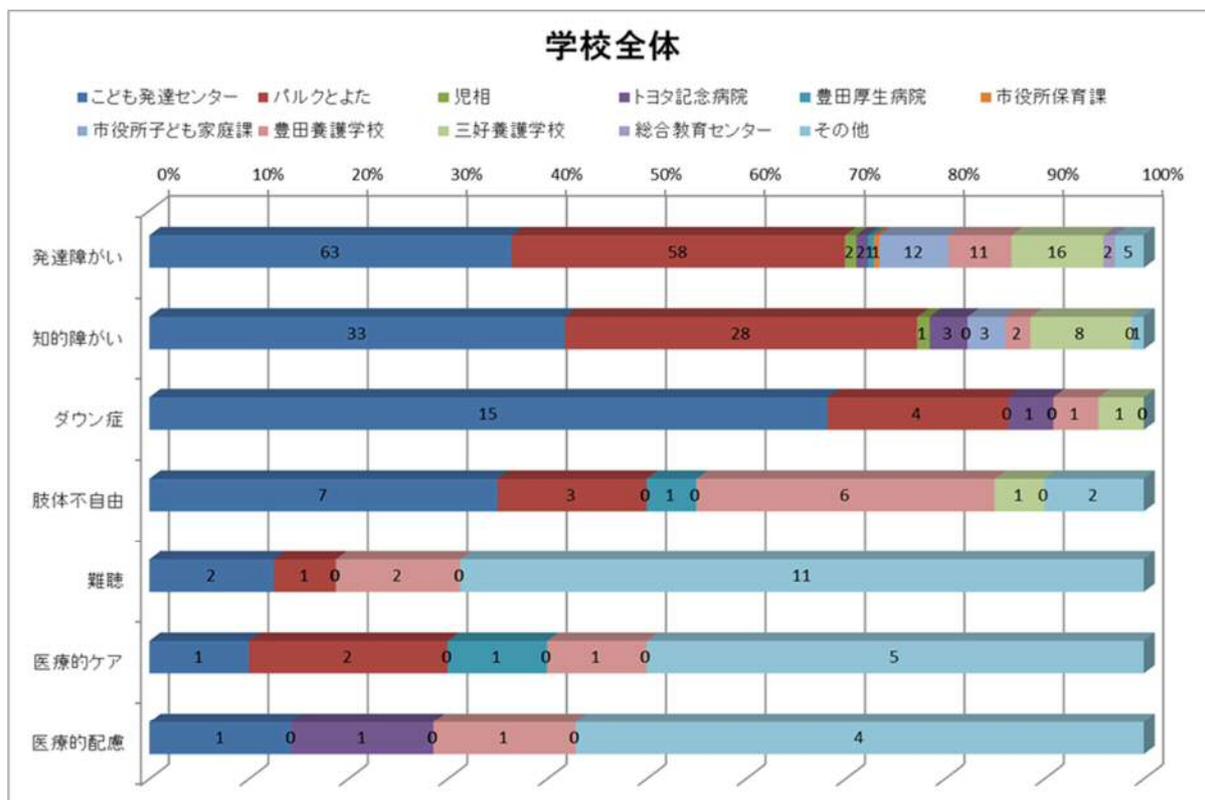
こども園等

医療的配慮のお子さんは主治医が中心ですが、その他は発達センターをあげられる園が多くありました。障がい種別では肢体では豊田養護学校、発達障がいではパルクとよた、肢体不自由、医療的ケアでは保育課をあげられる園が多くありました。



小中学校

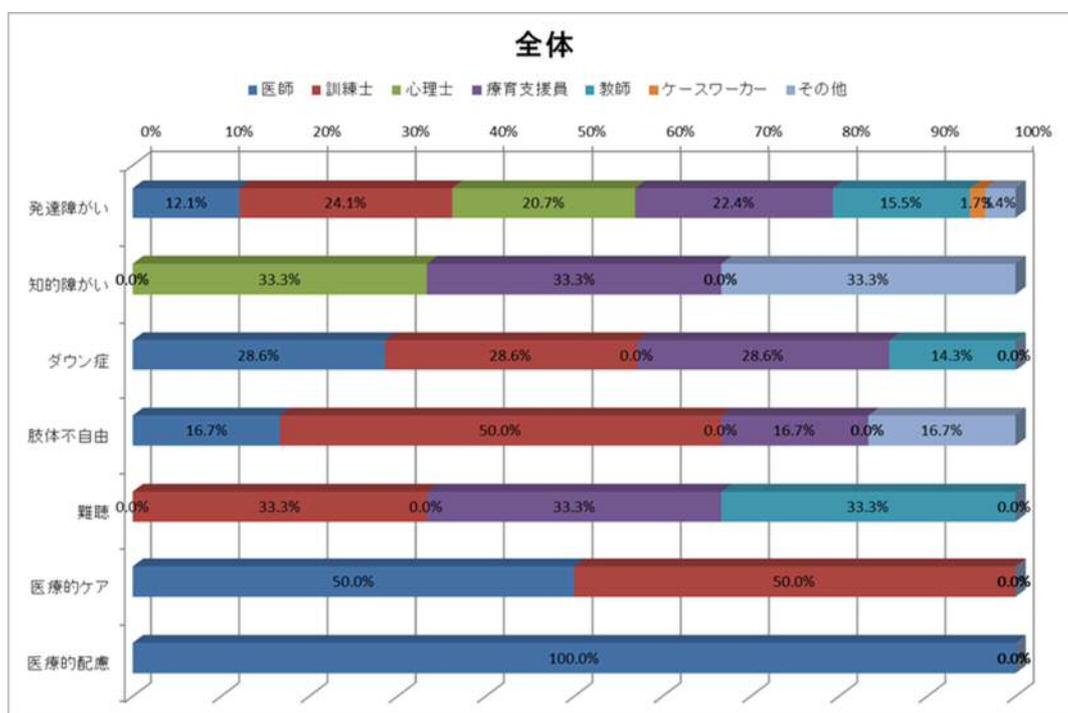
こども発達センターとパルクとよたをあげる学校を合わせると60%程度になりました。こども園等とは違いこども発達センターとパルクとよたは半々程度の割合になります。学校では発達や療育といった視点だけでなく、学級経営や教科指導など学校独自の部分での対応が必要なことから教育関係のパルクとよたの利用が多くなっているのだと思います。障がい種別によっては三好特別支援学校、豊田養護学校とも連携がとられています。また、お子さんの状況に合わせて聾学校、盲学校といった障がい種別に特化した特別支援学校や、主治医ともきちんと連携をとられていることが確認できました。



連携職種

こども園等

発達障がいについてはいろいろな職種に連絡をとられていました。全体的に機関名のみでの記入で職種が未記入のところが多くありました。



小中学校

連携機関としてパルクが多くなってきていることから、職種としては医師、訓練士と言った専門職ばかりでなく、教師という回答も多くありました。授業運営やクラス経営の点からの助言が求められていることが伺えます。また、職種については時折当該機関にはその職種がないのにチェックがあることがありました（例：機関名をパルクとよたとして、職種で療育支援員の選択）。



未記入のところが多いことや職種を間違えていることも考えられることから、こども園等、小中学校とも、職種としての専門性よりも、「子どもの担当の先生」ということで連絡を取られているのだと思います。

外部講師による研修

こども園等

外部からの研修について、具体的な実施内容について回答があった園は全体で7園であり多くはありませんでした。中には豊田市心身障がい児早期療育推進委員会の公開保育を上げている園もありました。学校とは違い、公開保育の実施や巡回相談の回数が多いことが影響しているのかもしれませんが。

小中学校

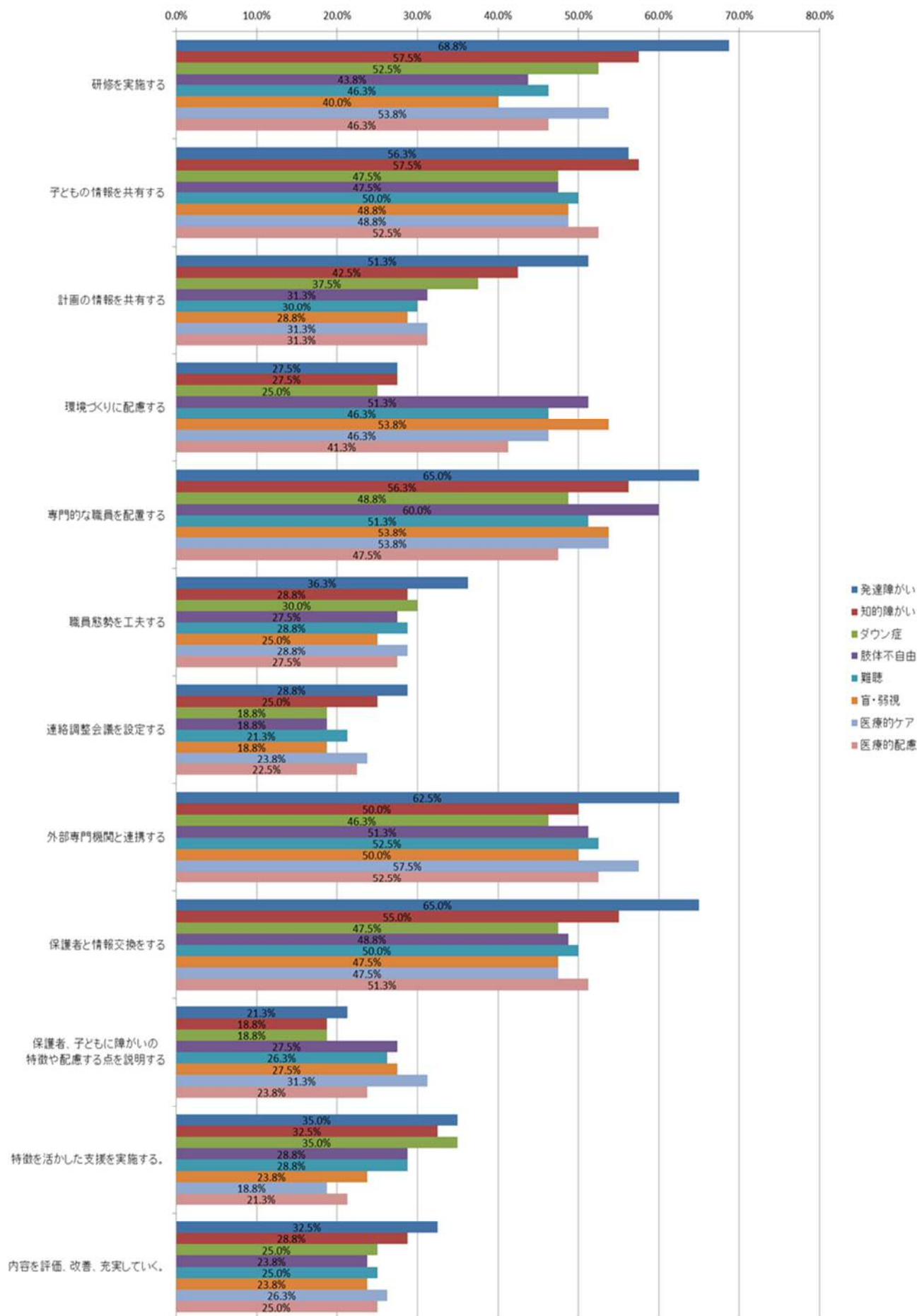
外部からの研修について、具体的な実施内容について回答があったのは、小学校42校、中学校15校でした。パークとよたの職員を講師としているケースがもっとも多く、次いで三好養護学校、豊田養護学校の順でした。

今後について

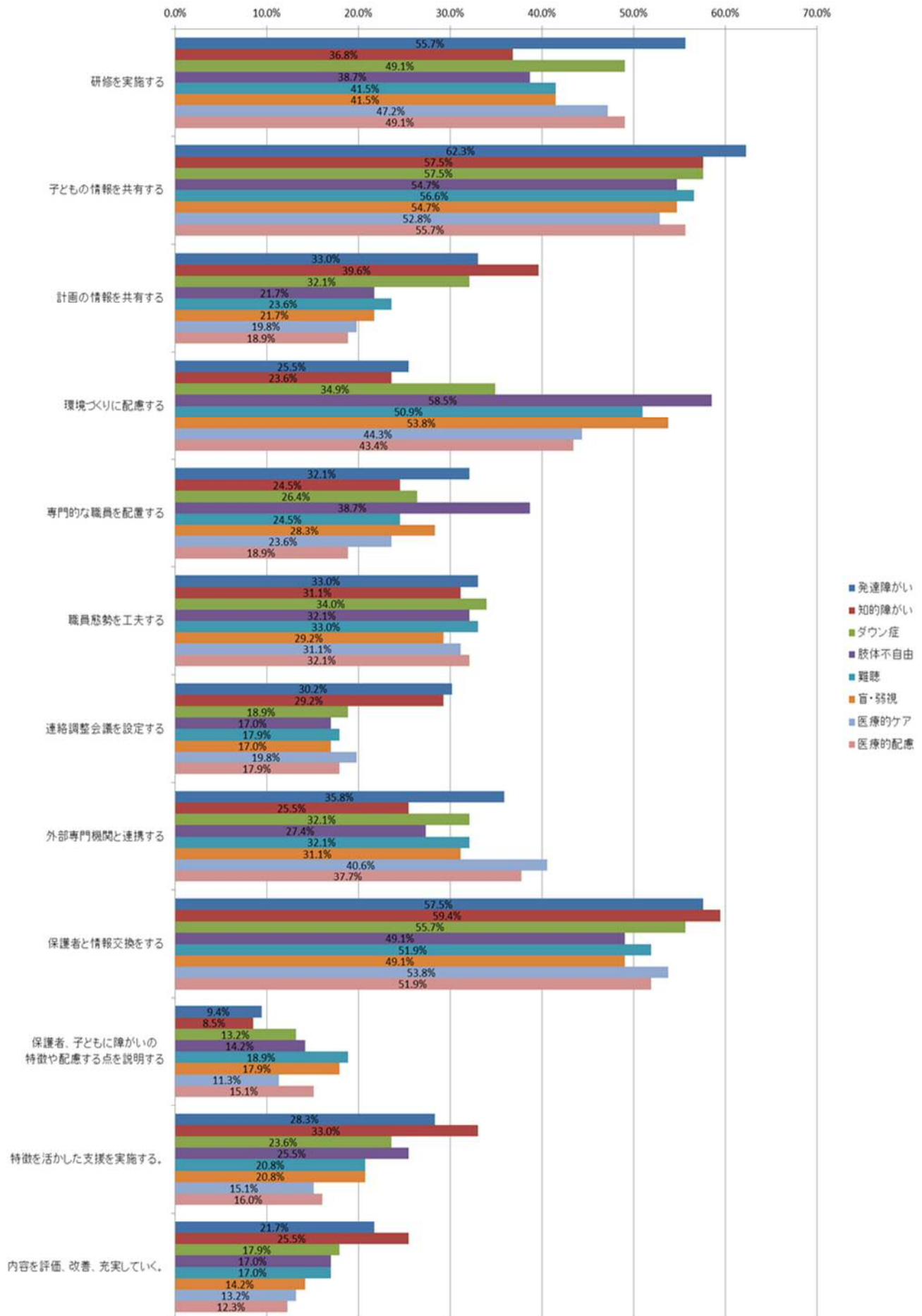
こども園等、小中学校を合わせた状況

こども園等、小中学校いずれも職員間や保護者との情報共有が重要と考えている点では一致しています。外部機関との連携の必要性については意識されています。こども園では定型発達の子を育てる保護者や、他の園児、児童、生徒への啓発についてはまだ取り組みの必要性を感じてられないようです。また、支援計画の情報共有についても意識は低く、子どもについての情報の共有の意識に比べて、具体的な取り組みについて情報を共有していくところがまだ不十分な印象を受けます。

全体の回答数に対する回答したところの割合(こども園等)



回答数全体に対する回答のあったところの割合(学校全体)



今後についての自由記述から

保護者との関係について

こども園等 回答園数 51

学校と比較すると保護者からの要望に対応するかという不安は少なめでした。信頼関係についての言及が多く、その中でも「関係ができるか不安」という内容よりも、形成が大切という感じの内容が多く見られました。また、子どもの年齢が低いことが要因と思われませんが、保護者がどの程度障がいについて認識しているかを気にしているところが学校に比べると多くありました。

小中学校 回答校数 48

保護者からの要望について対応できるかという不安を書いた内容が多くありました。保護者との信頼関係についても「関係ができるか心配」という内容も多くみられました(13校)。また、保護者の障がいについての認識が学校での様子を異なるというギャップを書かれているものがありました。

少数意見の中には、他の保護者や子供にどのように理解してもらおうとよいかというものや、保護者自身のハンディキャップの問題や、学校体制の問題、これから受け入れの予定があるかどうかという不安がありました。

専門知識、人材

こども園等 回答園数 29

研修の機会を利用して必要な知識を得たいという希望が多く(15園)、そのほか人員の要望や職員間の連携といった受け入れ体制についての問題を指摘するものも多くありました(12園)。

小中学校 回答校数 50

専門的な知識のある人材を求める声が多く(25校)、ついで多いのは障がいに合わせた環境整備の要望されるものでした(16校)。

外部との連携

こども園等 回答園数 20

連携については拡充してきたいという希望が大部分でした(14園)。

小中学校 回答校数 27

半数以上から相互理解や連携の必要性の指摘がありました(15校)。その中には従来の機関に加えて、福祉機関との連携の必要性を上げられる学校がありました(2校)。一方、時間の不足や手続きがわかりにくいために連携が取りづらいという意見もありました(7校)

その他今後について

こども園等 回答園数 5

すべて人材の充実や、連携について一層充実して欲しいと言う希望でした。

小中学校 回答校数 5

人的配置の要望のような他のところと重複する内容(2校)に加えて、保護者との関係や早期支援の方法、進路についてどうしていくかという意見がありました。

今後について全般の自由記述

こども園等 回答園数 39

受け入れについて肯定的(積極的に受け入れたい、他の子にもプラスになるなど)の意見が14園、人員や環境の問題を指定している意見が19園、保護者との協力を指摘するものが8園、連携の大切さを

指摘している意見が5園でした。

小中学校 回答校数 52

受け入れ環境や人員についての要望や学校に対する支援体制の整備を要望する声が圧倒的に多く(40校)、現場の先生の要望が切実なことが伺えました。

まとめ

こども園等、小中学校ともに障がいのある子の受け入れにあたっては限られた人員や予算の中でのさまざまな配慮をいただいている一方で、不安も多く抱えていることが伺えました。情報の共有や連携の充実が必要だというご意見が多くありました。お子さんの情報共有にあたっては発達センターでの情報を有効に活用、利用いただけるような工夫がまだまだ必要であり、緊密な連携をとっていくことの必要性を実感しました。また、専門的な知識について発達センターでサポートできる部分として、こども園等であれば巡回相談や公開保育、小中学校であれば現職教員研修などの機会に加えて、必要に応じた訪問や来所での相談で補うことができるとも考えております。現場の先生方は人員や環境面で不安を持たれており、その点につきましては、今回の報告書を関係機関にも配布することでご配慮いただけたらと思います。

アンケートにご協力いただきました、豊田市役所の保育課、豊田市教育委員会学校教育課、パークとよた、およびご回答いただいたこども園等、小中学校の先生方には改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

参考資料1 アンケート項目

1 こども園用

基本情報(こども園、幼稚園用)

園長先生、または主任先生がお答え下さい

1 ご回答いただいた機関について該当するところに○をおつけ下さい。

- ① 公立こども園 ② 私立こども園 ③ 私立幼稚園

2 お答えいただいた方の職名に○をおつけ下さい。

- ① 園長 ② 主任

3 これまでに障がい児を担当された経験年数を通算でお答え下さい。

年

4 平成 25 年 6 月 1 日時点で在籍されている全園児数をお教えてください。

男児 名 女児 名 計 名

5 個別の支援計画についてとりまとめをされる職員(学校での特別支援教育コーディネーターに相当する方)

はお見えですか。該当するほうに○をおつけ下さい。

いる いない

お見えの場合はどういった立場の方がされていますか。

- ① 園長 ② 主任 ③ 担任 ④ 加配職員 ⑤ その他()

6 障がいのあるお子さんについて個別の支援計画もしくはそれに類するものを作られていますか、該当すると

ころに○をおつけ下さい。

- ① すべての子に作っている ② 一部の子に作っている ③ 作っていない

7 個別の支援計画もしくはそれに類するものを作られる際には保護者の了解をもらっておられますか。

- ① すべてもらっている ② 一部もらっている ③ もらっていない

2 現在の対応について

今お見えになる障がいのあるお子さんへの対応について、障がい別にお聞きします。1で回答いただいた際に該当の障がいのお子さんがお見えにならない場合は回答不要です。

(以下発達障がい、知的障がい、ダウン症、肢体不自由、難聴、盲・弱視、医療的ケア、医療的配慮の各障がいについて同じ内容を質問していますので、発達障がいのみあげて他は省略します)

発達障がいのあるお子さんについて

(1) 園内での対応について

① 該当する欄に○を記入してください。

	現在すでに 組んでいる	具体的に取り 組む予定である	討 詰 り が 、 取 り 組 み を 検 討 し て い る	今 定 し て い な い	取 り 組 む 考 え は な い
障がいの特徴を理解するための研修を実施する。					
障がいのある子どもについての情報を共有する。					
個別の支援計画の内容についての情報を共有する。					
子どもの障がいに応じた安全な環境作りに配慮する。					
専門的な職員を配置する。					
職員態勢を工夫する。					
職員間で連絡調整する機会や会議を設定する。					
外部専門機関と連携する。					
障がいのある子の保護者と情報交換をする。					
他の保護者や子どもに対して障がいの特徴や配慮する点を説明する。					
障がいのある子の特徴を活かした支援を実施する。					
実際に行った支援を評価し、支援内容を改善、充実していく。					

② その他に工夫、配慮している点があればお書きください。

(2) 外部専門機関との連携について

- ① よく連絡をとっている機関について該当するところに○をおつけ下さい（複数回答可）。
 ・ 豊田市こども発達センター ・ パルクとよた ・ 豊田加茂児童障害者相談センター
 ・ トヨタ記念病院 ・ 豊田厚生病院 ・ 市役所保育課 ・ 市役所子ども家庭課
 ・ 豊田養護学校 ・ 三好養護学校 ・ 愛知県総合教育センター
 ・ その他（ ）

② 連絡の方法について

特によく連絡をとられている機関について、3箇所まで機関名と相手先の職種、方法についてお教えてください（複数回答可、特に多い職種、方法については◎をつけてください）。

機関名	相手先の職種(該当のところに○を)	方法(該当のところに○を)			
	医師 訓練士 心理士 療育支援員 教師 ケースワーカー その他()	直接面談	電話	書面	保護者を介して
	医師 訓練士 心理士 療育支援員 教師 ケースワーカー その他()	直接面談	電話	書面	保護者を介して
	医師 訓練士 心理士 療育支援員 教師 ケースワーカー その他()	直接面談	電話	書面	保護者を介して

③ 外部機関職員を招いての研修

機関名及び講師の職種 (よろしければ講師名もご記入ください)	内容(研修のタイトルやテーマなどで短くてかまいません)

(3) 外部機関との連携についてご意見をご記入ください。

【障がいのあるお子さんの今後の受け入れについての意識調査】

1 障がいのあるお子さんが入学を希望された場合、その受け入れにあたってどういったことに今後取り組む必要があるとお考えですか。それぞれの障がいについて、以下の項目で特に必要と思う項目欄に○をつけてお答え下さい(5項目まで)。障がい名については2ページでお答えいただいた表を参照してください。

	発達障がい	知的障がい	ダウン症	肢体不自由
障がいの特徴を理解するための研修を実施する				
障がいのある子どもについての情報を共有する				
個別の支援計画の内容についての情報を共有する				
子どもの障がいに応じた安全な環境作りに配慮する				
専門的な職員を配置する				
職員態勢を工夫する				
職員間で連絡調整する機会や会議を設定する				
外部専門機関と連携する				
障がいのある子の保護者と情報交換をする				
他の保護者や子どもに対して障がいの特徴や配慮する点を説明する				
障がいのある子の特徴を活かした支援を実施する。				
支援を実施したときには内容を常に評価をし、改善、充実していく。				

	難聴	医療的ケア	医療的配慮
障がいの特徴を理解するための研修を実施する			
障がいのある子どもについての情報を共有する			
個別の支援計画の内容についての情報を共有する			
子どもの障がいに応じた安全な環境作りに配慮する			
専門的な職員を配置する			
職員態勢を工夫する			
職員間で連絡調整する機会や会議を設定する			
外部専門機関と連携する			
障がいのある子の保護者と情報交換をする			
他の保護者や子どもに対して障がいの特徴や配慮する点を説明する			
障がいのある子の特徴を活かした支援を実施する。			
支援を実施したときには内容を常に評価をし、改善、充実していく。			

2 今後の障がいのある子を受け入れていくにあたって不安に思う点について、以下の項目別に、もしあればご記入ください。

① 保護者との関係について

② 専門的な知識をもった人材の配置や養成や園内の環境について

③ 外部との協力について

④ その他

3 今後の障がいのある子の受け入れについてのご意見をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

【障がいのあるお子さんの受け入れについての調査】

1 現在受け入れている障がい児(診断名がついているお子さん)について

平成 25 年 6 月 1 日現在の状況を障がい別にご記入ください。複数の障がいを合併しているお子さんについては、主な障がいについてご記入ください。

※診断名については、保護者から伝えられて、学校として把握している子についてお答えください。

障がいの種類		通常学級		特別支援学級		該当のお子さんがお見えの場合は以下のページについてもご記入ください
		男	女	男	女	
発達障がい	高機能自閉症（アスペルガー症候群、知的障がいのない広汎性発達障がいを含む）					3～4 ページ
	知的障がいのある自閉症（広汎性発達障がいを含む）					
	注意欠陥多動性障がい（ADHD）					
	学習障がい					
	その他の発達障がい（発達性協調運動障がいなど）					
知的障がい（ダウン症をのぞく）						5～6 ページ
ダウン症						7～8 ページ
肢体不自由（脳性麻痺、筋ジストロフィーなど）						9～10 ページ
難聴						11～12 ページ
盲・弱視						13～14 ページ
医療的ケアが必要な障がい	二分脊椎（導尿など）					15～16 ページ
	呼吸機能障がい（吸痰、気管切開、在宅酸素療法など）					
	摂食嚥下障がい（経管栄養など）					
	その他（病名： ）					
医療的配慮が必要なお子さん（糖尿病、食物アレルギーなどで、上の医療的ケアが必要な障がいの子は除きます）						17～18 ページ

2 現在の対応について

現在、在籍している障がいのあるお子さんへの対応について、障がい別にお聞きします。1で回答いただいた際に、該当の障がいのお子さんがお見えにならない場合は回答不要です。

(以下発達障がい、知的障がい、ダウン症、肢体不自由、難聴、盲・弱視、医療的ケア、医療的配慮の各障がいについて同じ内容を質問していますので、発達障がいのみあげて他は省略します)

発達障がいのあるお子さんについて

(1) 学校内での対応について

① 該当する欄に○を記入してください。

	現在すでに組み 組んでいる	具体的に取り組 む予定である	現在予定はしてい ないが、取り組み を検討している	取り組む考えは ない
障がいの特徴を理解するための研修を実施する。				
障がいのある子どもについての情報を共有する。				
個別の教育支援計画の内容についての情報を共有する。				
子どもの障がいに応じた安全な環境づくりに配慮する。				
学級運営補助指導員を配置する。				
校内支援体制を工夫し、対応する。				
職員間で連絡調整する機会や会議を設定する。				
外部専門機関と連携する。				
障がいのある子どもの保護者と情報交換をする。				
他の保護者や子どもに対して障がいの特徴や配慮する点を説明する。				
障がいのある子どもの特徴を活かした支援を実施する。				
実際に行った支援を評価し、支援内容を改善、充実していく。				

② その他に工夫、配慮している点があればお書きください。

※このページ以降はすべての学校がお答えください。

【障がいのあるお子さんの今後の受け入れについての意識調査】

1 障がいのあるお子さんが入学を希望された場合、その受け入れにあたって、今後どのようなことに取り組む必要があるとお考えですか。それぞれの障がいについて、以下の項目で特に必要と思う項目欄に○をつけてお答え下さい(5項目まで)。障がい名については、2ページでお答えいただいた表を参照してください。

	発達障がい	知的障がい	ダウン症	肢体不自由
障がいの特徴を理解するための研修を実施する				
障がいのある子どもについての情報を共有する				
個別の教育支援計画の内容についての情報を共有する				
子どもの障がいに応じた安全な環境づくりに配慮する				
学級運営補助指導員を配置する。				
校内支援体制を工夫し、対応する。				
職員間で連絡調整する機会や会議を設定する				
外部専門機関と連携する				
障がいのある子どもの保護者と情報交換をする				
他の保護者や子どもに対して障がいの特徴や配慮する点を説明する				
障がいのある子どもの特徴を活かした支援を実施する。				
支援を実施したときには内容を常に評価をし、改善、充実していく。				

	難聴	盲・弱視	医療的ケア	医療的配慮
障がいの特徴を理解するための研修を実施する				
障がいのある子どもについての情報を共有する				
個別の教育支援計画の内容についての情報を共有する				
子どもの障がいに応じた安全な環境づくりに配慮する				
学級運営補助指導員を配置する。				
校内支援体制を工夫し、対応する。				
職員間で連絡調整する機会や会議を設定する				
外部専門機関と連携する				
障がいのある子どもの保護者と情報交換をする				
他の保護者や子どもに対して障がいの特徴や配慮する点を説明する				
障がいのある子どもの特徴を活かした支援を実施する。				
支援を実施したときには内容を常に評価をし、改善、充実していく。				

2 今後、障がいのある子を受け入れていくにあたり不安に思ったり、心配に感じたりする点についてもしあれば、以下の項目別に、もしあればご記入ください。

⑤ 保護者との関係について

⑥ 専門的な知識をもった人材の配置や養成、校内の環境整備について

⑦ 外部との協力について

⑧ その他

3 障がいのある子どもの受け入れについてのご意見をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

参考資料 2 調査実施メンバー

氏名	所属
松浦 利明	豊田市こども発達センター のぞみ診療所 心理言語グループ主任(責任者)
若子 理恵	豊田市こども発達センター のぞみ診療所 長
藤村 慶子	豊田市こども発達センター 地域療育室 長
神谷 真巳	豊田市こども発達センター 地域療育室 相談支援グループ主任